

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071401097
法人名	有限会社 中山メディカルサービス
事業所名	グループホーム おあしすありた
所在地	福岡県福岡市早良区有田6丁目2-5 (電話) 092-801-1122

評価機関名	福岡県社会福祉協議会				
所在地	福岡県春日市原町 3－1－7				
訪問調査日	H22年	1月	20日	評価確定日	H22年 3月 1日

【情報提供票より】 (平成21年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 4月 10日				
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人		
職員数	30 人	常勤	15人	非常勤	15人 常勤換算 21人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての ~ 1、2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	35,000 円		その他の経費（月額）	20,000 円	
敷 金	(有) (200,000 円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (0 円) (無)		有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	420 円	
	夕食	520 円	おやつ	110 円	
	または1日当たり		円		

(4) 利用者の概要 (平成21年11月30日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	3 名	要介護2	11 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.1 歳	最低	65 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中山整形外科医院、福西会病院、牟田病院、前田歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

団地や高等学校に隣接し、閑静な住宅街にある二階建て3ユニットの事業所である。一階はデイサービスと1ユニット、二階に2ユニットがあり、それぞれのユニットは個性のある空間作りとケアに取り組んでいる。母体は医療法人で、他の診療科の往診も確保され、医療連携体制は整っている。開設当初より交流を深めてきた近隣の保育園・小・中・高等学校等には、定期的に福祉教育の場を提供し、利用者との交流が定着している。また、前庭の広い駐車場を地域の夏祭り等に開放している。全職員が救命講習を受け、24時間体制で事業所及び地域の応急手当の担い手となる「救マーク」事業所として登録され、地域住民からも頼られる事業所となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、改善計画シートを作成して全利用者の水分摂取量を記録し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は、会議で全職員が意見を表出し、管理者が集約している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議を定期的に開催し、現状報告や行事予定、外部評価等を報告している。委員から意見や要望を聴取し、地域の夏祭りに場所を提供する等、サービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
重点項目④	意見箱を設置している。来訪時や家族会、運営推進会議にて家族等の意見を聴取するよう努め、運営に反映させるよう努めている。また、利用開始時等に家族等へ事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

町内会に加入し、清掃活動等の地域活動や行事に参加している。近隣の保育園・小・中・高等学校等と交流し、また、実習生やボランティアを受入れている。事業所が場所を提供し、地域と合同で夏祭りを開催する等、積極的に地域と交流することに努めている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域・医療・福祉の連携のもと、地域密着型サービスの視点が含まれた事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を毎朝や会議時等にユニット毎で唱和している。理念の実践に向けて、言葉かけ等、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、清掃活動等の地域活動や行事に参加している。近隣の保育園、小・中・高等学校等と交流し、また、実習生やボランティアを受入れている。事業所が場所を提供し、地域と合同で夏祭りを開催する等、積極的に地域と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、会議で全職員が意見を表出し、管理者が集約している。前回評価での改善課題については、改善計画シートを作成して全利用者の水分摂取量を記録し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現状報告や行事予定、外部評価等を報告している。委員から意見や要望を聴取し、地域の夏祭りに場所を提供する等、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、行政担当者へ定期的に運営に対する報告、連絡、相談を行い、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について一部職員が外部研修を受講し、内部研修や会議で、全職員の共有化を図っている。パンフレット・研修記録がある。利用者や家族には、必要性に合わせて、来訪時や家族会等で説明を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便りを発行し、暮らしぶりや行事の様子等を報告している。緊急時等は電話で連絡している。金銭管理については、月1回、領収書を送付し、来訪時に出納帳を明示して確認の署名をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。来訪時や家族会、運営推進会議にて家族等の意見を聴取するよう努め、運営に反映させるよう努めている。また、利用開始時等に家族等へ事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えるように努めている。ユニット間で日常的に交流し、職員が代わる際は引き継ぎの期間を十分取る等、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実	○印	取り組みを期待したい内容
外部	自己		(実施している内容・実施していない内容)	(取り組みを期待 したい項目)	(すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除せず、介護に対する意欲や利用者への接し方等を重視している。また、事業所で働く職員については、経験や希望に応じた教育訓練や資格取得に配慮する等、安心して働ける職場環境づくりに努めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全職員は、人権に関する内・外部研修に参加している。テキスト・研修記録がある。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、外部研修の案内を全職員に周知し、本人の希望を考慮して学ぶ機会の確保に努めている。また、全職員が外部研修の内容を共有できるよう内部研修等で報告し、共有化を図っている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、行政を含めた地域の同業者ネットワークに参加し、勉強会や人事研修等を通じて情報交換を行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人及び家族との面接や訪問を行い、事業所の見学やショートステイ等を利用し、馴染みの関係を持つようにしている。入居後は、家族の協力や情報を参考にコミュニケーションを工夫しながら言葉かけを多くして、本人の不安解消に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や掃除、園芸をする場面等で、職員は利用者から知恵や技を教えてもらうことがある。料理の準備や工作等、利用者の得意分野で力を発揮してもらい、職員は毎回、ねぎらいや感謝の言葉かけをし、共に支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の思いを知ることの大切さを意識し、利用者の言動や表情、態度等から、本人の思いや希望の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、コミュニケーションを工夫し、家族から情報を得る等して、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者から得た情報や家族の希望、要望及び職員の意見を反映して個別具体的に作成している。本人・家族が了承した署名・押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に1回、見直しを行っている。また、利用者の状態変化に応じて随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は、早期退院に向けて家族及び医療機関と連携している。また、往診による医療処置を受けながら入院回避に努めている。通院や送迎等については、必要に応じて個別支援をしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医療機関での受診を支援している。通院介助及び情報の共有方法について話し合い合意しているが、利用者・家族の状況に応じて柔軟に対応している。また、健康状態に応じて医療機関の提案を行い、健康管理に努めている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について方針があり、入居時及び折に触れて説明している。利用者に状態の変化が合った場合は、本人・家族の意向を再度確認し、利用者・家族、医療機関等、職員で話し合い、全員で方針を共有している。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務や個人情報保護について内部研修を行っている。職員は、利用者に対する関わり方について日常的に話し合って互いに注意し合い、声かけや対応に配慮して、利用者の尊厳を損ねないよう努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や気分に合わせて、献立や入浴・食事時間を変更する等、利用者一人ひとりの希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が、一緒に食事の準備や片付けをしている。職員は利用者と同じものを同じテーブルで食べ、また、来訪した家族が共にテーブルにつき介助することもある。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、入浴を支援している。入浴を拒否する利用者には、言葉かけや誘導方法を工夫しながら、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の得意なことを把握し、できることを新たに引き出す等して、食事の準備、園芸、掃除等、一人ひとりに合った役割等の支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や希望また天候に配慮して、散歩、外食、買い物、ドライブ等を行っている。また、季節毎の花見や果物狩り等を計画し、戸外に出る機会を持つよう工夫し、支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は施錠していない。玄関ドアにつけた鈴に頼らず、職員は外出傾向のある利用者を把握し、見守りや付き添いを行っている。近隣住民に理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。年2回、地域住民に参加協力の声かけをし、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。非常用食料、飲料水、備品をユニット毎に準備している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録が、全利用者分ある。献立は、職員が利用者の嗜好や状態に配慮しながら作成し、年1回、併設施設に所属する栄養士及び事業所の協力医のチェックとアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を演出する畳コーナーや喫茶コーナーがあり、廊下の隅に鉢植えやテーブルと椅子を設置する等、利用者が思いおもいに過ごせるよう共有空間作りに配慮している。ユニット毎に家具の配置を変え、絨毯を敷く等して、個性を出している。不快と感じる音や光はない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの家具や仏壇を持ち込み、家族写真を飾る等している。ベッドの向きや家具の配置は様々で、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。